

若い患者さん（AYA世代）のがん種は多岐にわたります。
同世代の方に出会えず、一人で悩んでいませんか？



九州がんセンターは
AYA世代のがん患者さんに
最適な診療・支援をしています



AYA世代の患者さんは、
病気・治療のこと以外にも多くの悩みを抱えています。
様々な気がかりを一緒に考えていきましょう。
一人ひとり不安なことや気になること、大切に思っていることは違います。
どうぞ今の気持ちを私たちに教えてください。

AYA (=adolescents and young adultsの略語) 世代は、
15～39歳（諸説あり）の思春期・若年成人を指します。

*イラスト提供:丸山かおり



独立行政法人国立病院機構
九州がんセンター

電話:092(541)3231
Fax:092(551)4585

〒811-1395 福岡県福岡市南区野多目3丁目1番1号

私たちがお手伝いします

医師



治療方針を一緒に考えます。何が一番最適か、納得できるように話し合しましょう。あなたが予定していたこと、大切なこと、気になることなどを教えてください。

薬剤師



主にお薬の説明に伺います。副作用で困っていることはありませんか？薬の効果について気になることはありませんか？薬のこと、何でもご相談ください。

心理士



あまり気を張らずにお話ししましょう。モヤモヤしていること、嬉しかったこと、今後のことなど何でも一緒に考えます。将来のこと、生き方、家族のこと、雑談の話し相手にもなりますよ。

理学療法士



日常生活や学校、仕事、趣味など、体力面で不安なく復帰できるよう一緒に考えて運動していきます。

看護師

病気や治療のわからないことは何でも質問してください。体や気持ちの苦痛が最小限になるようお手伝いします。妊孕性*についても相談してください。一番身近にいるので気軽に話しかけてください。



*妊孕性とは「妊娠するための力」のことをいい、がん治療により男性・女性共に妊娠するための力が弱まる可能性があります(治療により生殖機能への影響は異なりますので一概ではありません。)

医療ソーシャルワーカー

仕事や学校の継続、医療費などのお金のこと、子どもや親の介護のことなど、さまざまな不安や困りごとに対して、利用できる制度等の紹介をしながら、問題解決のお手伝いをします。



栄養士

「副作用で味を感じない」「たまにはジャンキーなものも食べたい」など食事や食習慣、治療時の食事に関する？を解決していきます



当院では、各診療科・各部門メディカルスタッフが連携して最適な治療、心理社会的支援を行います。いつでも気軽にご相談ください。

AYA世代がん患者さんはいろいろと悩んでもあまり口に出さないことが多いです

手術/抗がん剤/放射線…
治療どうしよう



公的医療費/
医療保険…どうしよう



学校・進学/就職・復職/
恋愛・結婚…
どうしよう

家族/友人…どうしよう

心の中ではいろいろと考えている・・・
でも、何をどう話していいのかわからない・・・
話しても解決するとは思えないし、話すの面倒だな・・・



あなたの悩んでいることはありませんか？
にチェックして整理するのもいいかもしれません

AYA世代の皆さんが気になること

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 今後の自分の将来のこと | <input type="checkbox"/> 家族(子どもや親など)のこと |
| <input type="checkbox"/> 診断・治療のこと | <input type="checkbox"/> 容姿のこと |
| <input type="checkbox"/> 副作用や合併症のこと | <input type="checkbox"/> 食事や栄養に関すること |
| <input type="checkbox"/> 仕事・学校のこと | <input type="checkbox"/> 体力や運動面 |
| <input type="checkbox"/> 経済的なこと | <input type="checkbox"/> がんの遺伝の可能性について |
| <input type="checkbox"/> 恋愛や結婚 | <input type="checkbox"/> 生き方・死に方 |
| <input type="checkbox"/> 今後の妊娠に関すること | |

とりあえず「〇〇ってどうしたらいいの？」
「△△って思うんだけど・・・」と口に出してみましょう



どんな小さなことでもいいです、近くの看護師にお声をおかけください

☆みんなの体験談☆



治療の説明が難しく、治療方針について悩んでいるときに看護師さんに相談しました。私の気持ちを理解してくれて、納得できる治療を受けることができました。

治療のため学校を長期に休むことになり留年が心配でした。主治医の先生や看護師さんから心理士さんに相談を勧められました。勉強や友達のことや復学のことを相談しました。学校と連携を取ってもらえて助かりました。



突然の入院・治療で仕事をやめようかと思っていた時に医療ソーシャルワーカーさんに相談しました。仕事をやめずにどうやったら続けられるのか、休んでいる間のお金のことなども詳しく説明してくれて助かりました。

子どもにどのようにがんを伝えたらいいのか悩んでいるときに看護師さんに相談しました。その後心理士さんから対応の仕方などのアドバイスをもらい、安心しました。



退院後に学校の階段が昇れるか心配していたけど、リハビリの先生と練習していたから安心してできました。通学方法や部活の事も一緒に考えてもらって良かったです。

治療中や治療後の性生活について誰にも話せず悩んでいました。主治医の先生や看護師さん、心理士さん、みんな聞いてくれて、こんなことも相談できるんだと思いました。



治療の影響で不妊になる可能性を聞いて落ち込んだけど、患者・家族支援センターで、相談できる病院を教えてもらって受診することができました。連携をとってもらえて良かったです。